

裾野麗峰山の会山行報告書

文・写真 諏訪部豊

山行番	個人山行
日 時	2014. 8. 2 (土) 晴時々曇り～2 (日) 晴時々曇り
山 域	中央アルプス・空木岳 (千畳敷カール～檜尾岳～空木岳～南駒ヶ岳、最高点＝2864m)
コース	2日＝千畳敷カール 6:30～極楽平 7:040～檜尾岳 9:30～熊沢岳 10:55～木曾殿山 荘 12:30・13:00～空木岳 14:40～駒峰ヒュッテ 14:50 3日＝駒峰ヒュッテ 5:10～空木岳 5:20～赤柳岳 6:15～南駒ヶ岳 7:00～空木岳 8:45～駒峰ヒュッテ 8:50・9:10～池山尾根～池山林道終点 13:35
標高差	上り＝千畳敷約2650m～空木岳約2864m＝約214 (ただし累計標高差は大) 下り＝空木岳約2864m～池山林道終点約1499m＝約1365m
参加者	諏訪部 (単独)

前回は7月5, 6日にキタダケソウを見に北岳に登った。梅雨時ゆえ初日は少し雨に遭ったが2日目は晴天に恵まれた。そして山頂から西側正面に中央アルプスが望めた。しかし残念ながら私は木曾駒ヶ岳と宝剣岳 (とその背後の三ノ沢岳) にしか登ることがない。もちろん檜尾岳 (ひのきお) や空木岳 (うつぎ)、越百山 (こすも) などの山名は知ってはいたが、山座同定は向こうに見える山に自分が登ったことがないと正確にできない (不思議だが私はそうだ)。だから北岳では「あれが檜尾、それが空木」と同行者に教えることができずに歯がゆい思いをした。

台風が接近していたが8月2, 3日は再度北岳に登って既に満開になっているであろうシナノキンバイやクロユリを見に行こうと考えていた。しかしガイドブックを良く読むと1泊2日で檜尾岳や空木岳、それに南駒ヶ岳にも登れることが分かった。中央アルプスの山座同定ができなかった悔しさもあって急遽この計画にした。実は私にとってこれまでこの山域はあまり興味がなかった。しかしそれは単なる「食わず物嫌い」であったことが実際に行ってみて分かった。



8月1日、仕事が終わって富士市を車で出発した。駒ヶ根ICから僅か数分で駒ヶ池駐車場だ。2日目はここに下山して来るのでこの駐車スペースに車を停めて車中泊した。

8月2日、バスとロープウェイで千畳敷カール着。八丁坂を登って宝剣岳経由で檜尾岳に向かうことも

考えたがそれだと余計に時間が掛かる。これまで歩いていない稜線を歩くのが主チングルマ。背景は伊那前岳と千畳敷カール

眼だし、台風12号の影響で天気も心配なので予定通り極楽平に向けて登る。道中はコイワカガミ（小岩鏡）、チングルマ（稚児車）、シナノキンバイ（信濃金梅）などが今を盛りに咲いている。



左にハヶ岳連峰。右に南アルプス



手前が檜尾岳。左奥に空木岳、中央奥は南駒ヶ岳。キソウ（姫薄雪草、コマウスユキソウとも言う。エーデルワイスにかなり近い）があちこちに株を作って咲いている。

濁沢大峰を経て檜尾岳に登ると左手にカマボコ屋根の檜尾避難小屋（定員20名）が見える。「泊まってみたい」と思わせるこぢんまりとした小屋だ。



檜尾避難小屋

稜線（極楽平）に出ると一気に展望が開ける。三ノ沢岳と御岳が真正面に見え、振り返れば伊那谷を挟んで南アルプスが全山見える。

ここからは花崗岩の砂礫の道になり、花の種類が一気に変わる。タカネツメクサ（高嶺爪草）、イワツメクサ（岩爪草）、イワギキョウ（岩桔梗）、ミヤマダイコンソウ（深山大根草）、ミヤマイワニガナ（深山岩苦菜）、そしてこ

檜尾岳からは熊沢岳、東川岳を経て大きく下り、木曾殿山荘に降り立つ。ここから下り9分の所にある水場「木曾義仲の力水」で4リットル補充する。

重くなったザックと急登に喘ぎながら空木岳山頂に達した。途中雨雲が通過して少しパラパラと降られたが多少濡れた程度だった。

山頂からは直下に今夜の宿、駒峰ヒュッテが見える。白砂を下ってヒュッテに到着。ここは地元の駒峰山岳会が建てた物で夏山シーズン中は管理人が常駐している。

食事の提供はなく、全て素泊まりで寝具なし3,500円だ。また水は持参するかPETボトル(500mlで200円)を購入する。ちなみにビールは500円だった。

東側に設けられたテラスで背負い上げたビールを飲み、早めの夕食にする。この日の泊まり客は60名程度。ほぼ定員なので少し窮屈だった。



8月3日、八ヶ岳の右側から日が出た。寝袋やマットなど不要な物を小屋にデポして空木岳に登り返す。南駒ヶ岳に向かうがどこまでも花崗岩の砂礫の道が続く。アップダウンを繰り返してそれに飽きる頃、赤檜岳(あかなぎ)に着く。南駒は近くはなったがまだ先だ。



赤檜と南駒との鞍部で摺鉢窪避難小屋への道を分ける。この小屋は湿地帯に建っていてこれも小さな小屋(定員30名、水場はない)だ。ここにもぜひ泊まってみたいと思う。



花崗岩の巨岩群の下を登り、ようやく南駒ヶ岳に到着。小さな祠がある。仙崖嶺(せんがきれい)がすぐ先にある。その右下に越百山があり、その右に赤い屋根の越百小屋がある。この小屋も泊まってみたい。

山頂では昨夜小屋で話をした単独男性2名が相次いで到着した。一人は地元松川町在住で若い頃は函南町に住んでいたと言う。もう一人は愛知県から来たとのこと。彼らはここから木曽側を下る。私は元来た道を辿って駒峰ヒュッテに戻った。荷物をまとめて池山尾根を下り始める。日帰り登山だろ

うか、下からは続々と登ってくる。中にはトレラン姿もいた。



南駒ヶ岳山頂。右奥は御岳山

池山尾根の上部は花崗岩の気持ちのいい道だ。右手下には空木平避難小屋（定員30名）が見える。昨夜はここに泊まっても良かったがやはり稜線上の小屋の方が気分がいい。

森林限界付近ではキバナシャクナゲ（黄花石楠花）が花盛りだった。道は樹林帯に入り、延々と続く。露岩の鎖場や栈道（その名も大地獄、小地獄）もあり、楽しませてくれる。

長い下りの後ようやく池山小屋に着いた。ここからは緩い下りが続き、林道終点に出た。運良くタクシーが上がってきたので相乗りで駒ヶ池まで下る。

温泉は定番の「こまくさの湯」にしようと思ったが駐車場が満車に近い混みようだった。これでは風呂も混んでいるだろうと判断して、今年のGWに山スキーをしに来た時に飛び込みで泊まった駒ヶ根温泉ホテルに向かう。500円の日帰り温泉でさっぱりし、これも昨年立ち寄った「駒ヶ根ファームス」でソースカツ丼を食べた（1,000円、旨い）。その後、中央高速を順調に走って午後7時には自宅に到着した。

なお「こまくさの湯」の道路向かいには甲斐駒ヶ岳赤石沢奥壁の開拓で有名な井上進氏の経営する食堂がある。氏は駒峰山岳会員であり、さらに赤石沢奥壁を登るための「赤蜘蛛同人」も結成した。70才を過ぎた今でも現役のクライマーだ。この日は店が休業だったので訪ねることはできなかったが、次回は氏の著書「長い壁・遠い頂」を持参してサインを貰おうと思っている。

すっかり俗化した木曾駒や宝剣とは異なり、極楽平から南はまったく違う世界だった。小屋は木曾殿山荘と越百小屋を除いて全て自炊（避難小屋は寝具も持参。小屋番もいない）なのでここにはいわゆる観光登山客はいない。景色や花も素晴らしく、実に雰囲気の良い山城だった。「こんなに良い所ならばもっと若い頃に訪れるべきだった」と今回も反省しきりだ。

また繰り返しになるがどの小屋も良い場所に建っていてどれもこぢんまりとしている。それらが半日行程の間隔で点在している。リタイアして時間が自由になったらこれらの小屋を一つずつ泊まり歩くのも楽しいだろうと思う。



ミヤマイワニガナ



ヒメウスユキソウ



イワツメクサ



タカネツメクサ



イワギキョウ



アオノツガザクラ



ミヤマダイコンソウ



ミヤマシオガマ